



東京大学先端科学技術研究センター

東京大学先端科学技術研究センター(先端研)は、1987年に設立された東京大学で最も新しい附置研究所です。従来の大学の殻を破る研究・教育体制の推進拠点として文理融合を実践し、「我が国初」と呼ばれる多くの新制度や取り組みを生み出しています。最大の特徴は、研究者や研究分野の多様性と、臆することなく挑戦する文化にあり、医学・理工系の先端研究から社会科学やバリアフリーなど社会システムに関わる研究まで、40以上の研究室・研究部門が新領域を開拓し、基礎から応用、社会実装を積極的に展開しています。また、東大附置研究所で唯一、博士後期課程(先端学際工学専攻)を有し、イノベーションを生み出す人材育成にも取り組んでいます。



東京大学 先端科学技術研究センター
Research Center for Advanced Science and Technology
The University of Tokyo



K O Y A S A N C O N F E R E N C E 2024 高野山會議

科学・芸術・宗教の対話が見つめる
一二〇〇年後の世界とは。

高野山會議 2024

2024年7月10日～13日 於 金剛峯寺 / 高野山大学 等

主催：東京大学先端科学技術研究センター

主管：東京大学先端科学技術研究センター 先端アートデザイン分野

共催：高野山金剛峯寺 / 高野町 / 高野山大学 / 和歌山県 / 橋本市 / かつらぎ町

<https://www.brain.rcast.u-tokyo.ac.jp/koyasan/>



地球上のすべての人々が 協調して自然と共生する ための 科学技術を目指して

主催者挨拶



東京大学先端科学技術研究センター所長・教授

杉山正和

人類はこれまで、人間をとりまく自然を支配する法則を理解し、地球の歴史とともに蓄えられてきた資源を利用して自然を制御することで、能力を拡張してきました。これは、私たちの幸せを増やしたでしょうか？

フラットで双方向なコミュニケーションが地球全体で瞬時に展開され、サイバー空間上で人類がふれ合い豊かさを享受できる社会が実現されそうです。一方で、人類による利便性の追求は資源制約や気候変動に直面して見直しを迫られています。さらに、人類を絶滅させるほどの大量殺戮が可能になり、いまでも世界中で戦争が続いています。

科学技術の発展に比して、人間の倫理が追いついていないことが、現在の複雑な問題の根底にあるのではないのでしょうか。人間が自然のごく一部でしかない段階では、人間の能力拡張は生存のための正義であったのでしょうか。しかし、人間活動が自然の在り方を大きく変えるほどに人間の能力が拡大した現在、人類とその周囲の自然すべての「より良き生存」を目指す新たな啓蒙・倫理の確立が強く求められているのではないのでしょうか。

科学技術による人間拡張の限界を悟った人々が、古今東西のあらゆる哲学を参照し、人間中心の世界観から、地球上の万物の調和と共生を可能にする新たな価値観への転換を目指す。理性による二者択一的な討論ではなく、豊かな感性を織り交ぜた包摂的対話が展開される。高野山会議は、このようなユニークで世界をリードする学堂でありたいと願っています。

高野山会議 2024

2024年7月10日～7月13日 於 金剛峯寺 / 高野山大学 等
主催：東京大学先端科学技術研究センター
共催：高野山金剛峯寺 / 高野町 / 高野山大学 / 和歌山県 / 橋本市 / かつらぎ町
<https://www.brain.rcast.u-tokyo.ac.jp/koyasan/> 題字：添田隆昭
※築野グループ株式会社様、株式会社丸和代表取締役丸山昌三様、株式会社JERA様からご寄附を頂き有難うございました。

主管挨拶



東京大学名誉教授・東京大学先端科学技術研究センターシニアリサーチフェロー

神崎亮平

“いのち”やそれをはぐむ自然の大切さは誰もが願うところです。しかし、今の世界の実状はそれとは大きくかけ離れています。環境問題や食糧問題、格差問題をはじめとするさまざまな課題が蓄積し、さらには紛争や戦争も絶えない状況が続いています。

わたしたちの“こころ”の奥底には、自然は私たちの“こころ”であり、また私たちの“こころ”には自然が宿る、人も自然の一部であるという“こころ”があるのではないのでしょうか。だから自然をつくるすべてのものが大切であり、自分だけではなく他人、動物、植物、昆虫、さらには水や石に対しても思いやりという“こころ”が生まれ、“いのち”を大切に作る“こころ”が生まれるのだと思います。

「高野山会議」は、科学・芸術・哲学・宗教・教育、そして自治体や企業などのさまざまな背景の方が、多様な角度から今の時代の課題を対話を通して議論し、“いのち”の大切さや人本来の“こころ”のありかたに気づき、それを1200年後まで発信し続けていくために設けられた会議です。

おかげさまで、「高野山会議」は、多くの皆様、自治体、企業のご賛同をいただき、高野山金剛峯寺、高野町、高野山大学、和歌山県、橋本市、かつらぎ町との共催で、今回第4回目を開催いたします。このような無為自然の輪が「高野山会議」からさらに広がっていくことを願っています。

今年、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産登録20周年を迎えました。記念シンポジウムも企画し、「高野山会議」を1200年先まで皆様とともに継続して創っていくことの大切さについてもあらためて振り返ってみたいと思います。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

標高800mの山上盆地に真言密教の根本道場として空海が創建した高野山は、2004年7月、「高野山」、「熊野三山」、「吉野・大峯」の三つの霊場とそれらを結ぶ「参詣道」で構成される『紀伊山地の霊場と参詣道』として世界遺産に登録されました。今年は登録20周年を迎えます。

高野山会議

高野山會議

タイムスケジュール

TIME SCHEDULE

7月10日(水)

7月11日(木)

7月12日(金)

7月13日(土)

7:00				7:00
8:00		研究活動 ※一般の受付はいたしません。 8:00-9:00 山内エクスカージョン @壇上伽藍		8:00
9:00				9:00
10:00	SESSION 02 9:30-11:30 高野山と宇宙 @金剛峯寺大会議室 統括/東京大学先端科学技術研究センター特任准教授 吉本英樹 登壇者/写真家 上田優紀 JAXA 宇宙探査イノベーションハブマネージャ 大塚成志 学校法人高野山学園法人本部長 山口文章 国立天文台上席教授 渡部潤一		研究活動 ※一般の受付はいたしません。 8:00-15:00 高野山麓エクスカージョン @和歌山県橋本市 (清水/紀州製竿組合) 伝統工芸品 「紀州へら竿」を訪ねて @和歌山県かつらぎ町 (天野/天野の里づくりの会・丹生都比売神社) 薔薇と神社と天野を考える ワークショップ	SESSION 06 9:00-11:30 ひとはなぜ戦争をするのか? ALL RCAST@高野山大学201大教室 統括/東京大学先端科学技術研究センター所長・教授 杉山正和 登壇者/東大先端研フェロー 小泉英明 東大東洋文化研究所所長 中島隆博 東大社会科学研究所所長 宇野重規 東大理学系研究科教授 太田博樹 東大先端研教授 池内恵 東大先端研特任教授 国末憲人
11:00				11:00
12:00		コンサートシリーズ meets @金剛峯寺本坊 11:45-12:15 演奏/堀米ゆず子(ヴァイオリニスト)		12:00
13:00	受付 12:30-13:00 開会式 @大師教会 13:00-14:45 開会宣言/高野山會議ファウンダー、東大名誉教授、先端研シニアリサーチフェロー 神崎亮平 東京大学先端科学技術研究センター所長・教授 杉山正和			13:00
14:00	オープニングトーク 「高野山會議」の原点と未来 進行/高野山會議ファウンダー、東大名誉教授、先端研シニアリサーチフェロー 神崎亮平	SESSION 03 13:30-15:30 インクルーシブデザイン @黎明館 統括/東京大学先端科学技術研究センター特任教授 伊藤節 登壇者/東大先端研特任教授 福島智 東大先端研准教授 並木重宏 ユニバーサルデザインアドバイザー 松森果林 資生堂クリエイティブ(株) 和久井裕史 資生堂クリエイティブ(株) 塩田笑子		クロージング(高野山宣言2024) クラシックコンサート @黎明館 演奏/弦楽アンサンブル(総監督:近藤薫) 中野振一郎(チェンバロ奏者) 曲目/早川正昭 /バロック風日本の四季より「夏」 A. ヴィヴァルディ ヴァイオリン協奏曲集 「和声と創意の試み」作品 8【四季】より「夏」他
15:00	SESSION 01 15:00-17:00 WAの芸術とデザイン_継承と変換 @大師教会 統括/東京大学先端科学技術研究センター特任准教授 伊藤志信 登壇者/輪島キリト代表 桐本泰一、開化堂6代目 八木隆裕 ガラス造形作家 西中千人			15:00
16:00	作品展示対面ショートセッション @大師教会	SESSION 04 16:00-17:15 次世代育成 @金剛峯寺大会議室 ~悠久の絆を包摂する環境創造「まちづくり」~ 統括/ヴァイオリニスト、東京大学先端科学技術研究センター特任教授 近藤薫 登壇者/丹生都比売神社宮司 丹生晃市、前長久手市長 吉田一平	SESSION 05 15:30-18:00 世界遺産登録20周年記念シンポジウム 先端研×南方熊楠顕彰会×高野山大学 紀伊山地に育まれた精神性と 自然から世界に伝えること @黎明館 統括/高野山會議ファウンダー、東大名誉教授、先端研シニアリサーチフェロー 神崎亮平 登壇者/高野山大学副学長 松長潤慶、富士通デザイナー 藤原和博 南方熊楠顕彰会常任理事・学術部長、成城大学非常勤講師 田村義也 田辺市長 真砂充敏、高野町長 平野嘉也	
17:00				17:00
18:00		スペシャルトーク&ライブ @黎明館 17:45-18:15 登壇者/音楽家・数学研究者・STEAM 教育者 中島さち子		18:00
19:00				19:00
20:00	研究活動 ※一般の受付はいたしません。 19:30-21:00 ナイトエクスカージョン 夜の奥之院散策 @奥之院	関係者限定 ※一般の受付はいたしません。 公式レセプション @黎明館		20:00
21:00				21:00

先端アートデザイン展示(7月10日~13日) @金剛峯寺別殿 他
「TEACADDY_テーブル、ツール」 デザイナー:伊藤節・伊藤志信、製作:開化堂/2024年、協力:中川木工芸・比良工房

「Rose」 デザイナー:吉本英樹、製作:株式会社箔一、大蔵山スタジオ株式会社、株式会社ブルド/2023年

開 会 式

日時：7月10日(水) 13時00分～14時00分 場所：大師教会大講堂

独唱

小森輝彦(オペラ歌手・声楽家)

開会あいさつ

東京大学先端科学技術研究センター所長・教授 杉山正和

開会宣言

高野山会議ファウンダー、東京大学名誉教授、先端研シニアリサーチフェロー 神崎亮平

ホスト挨拶

金剛峯寺執行長・高野山真言宗宗務総長 今川泰伸、高野町長 平野嘉也

オープニングトーク 「高野山会議」の原点と未来

日時：7月10日(水) 14時00分～14時45分 場所：大師教会大講堂

進行：高野山会議ファウンダー、東大名誉教授、先端研シニアリサーチフェロー 神崎亮平

先端アートデザイン展示

日時：7月10日(水)～7月13日(土) 場所：金剛峯寺

「TEACADDY__テーブル、スツール」

デザイン：伊藤節、伊藤志信 製作者：開化堂

協力：中川木工芸・比良工房 作成年：2024

「イングリディメント」、イタリアのアートデザインで使われる手法の1つで、拡大することで、そのものに対する共感性や存在意義、象徴性を表現している。一貫した手づくりで一世紀を過ぎた今も尚、初代からの手法を守り続けてきた、茶筒づくり日本最古の歴史をもつ京都の開化堂、その茶筒の素材と技法を使い、それをファニチャー(テーブル・スツール)にイングリディメントしたアートデザイン作品である。

「Rose」

デザイン：吉本英樹

制作：株式会社箔一、大蔵山スタジオ株式会社、株式会社ブルド

作成年：2023

高野山の麓、天野の地にある丹生都比売神社。ここに祀られる丹生都比売大神は弘法大師空海に高野山の地を授けた神様です。ときに重ね合わせて語られる、大日如来と丹生都比売大神。その神仏習合のすがたを表現したいと思い、この作品を創りました。そこに描かれるのは、丹生都比売神社に伝わる、美しい薔薇の紋様です。



昨年度のアート展示の様子：国内最大級の石庭・蟠龍庭をのぞむ別殿にて展示、四季の花を描いた襖絵が華やかさを添えました

SESSION 01 WAのアート デザイン_伝承と変換 統括：伊藤志信

日時：7月10日(水) 15時00分～17時00分 場所：大師教会

和 / アートデザイン / ネイチャーセンタード / サステナビリティ / レジリエンス / 匠

セッション概要

1200年後の私たちの環境と生活、文化はどう変わっているのか。それは産業革命以降の100年余を総括して、我々の世界を変革する持続可能な開発や今後の私たちの思想とその行動が反映されていく事でしょう。アートデザインという視点を通して、物質中心の拡張主義から解き放たれた日本の新たな文化の方向性を考察することは今後の重要課題です。宗教観と芸術とデザイン、工芸と匠によるサステナビリティ、レジリエンスとは、アートデザインの現在と未来において、消えゆくもの、消えざるものとは、私たちが残していかなければいけない美とその精神性は何でしょうか。日本発のアートとデザインのメッセージを更なる未来に繋げることが目的です。

その中で注目されるのが、匠の思考性、手とコミュニケーションから生み出される伝統技術やそれを活かし、伝統と革新性が融合したアートデザイン思考です。

昨年度のセッションでは、木桶の技術で伝統工芸からアートまで広く制作をする匠、中川周士氏が伝統技術と芸術/デザイン/建築の融合の重要性、自然の造形に学び、それを活かした自然と人間の智の融合が必要であるという事を講義しました。また、欧州における日本のアートデザイン研究の第一人者で、AADアドバイザーある Rossella Menegazzo氏が事例を紹介し、過去から現代までの日本のアートデザインの素晴らしさ、世界に与える影響力について講義しました。伊藤志信特任准教授が、海外での経験から日本と西洋の文化とアートデザイン比較を行い、日本の美の特徴や特異性について講義しました。本年度は3名の登壇者をお呼びしております。輪島キリモト代表である桐本泰一氏は、石川県輪島市生まれ。今年の能登半島地震の被災者でもあります。七代にわたって木と漆の仕事に携わってきた桐本家に帰郷後、弟子修行を行い、デザイン提案、漆器監修等を行い、代表就任後に商号を「輪島キリモト」とし、多くの産地内の職人達と交流しながら、木工製品や漆の器、小物、家具、建築内装材に至るまで、木と漆が今の暮らしにとけ込むさまざまな可能性に挑戦しています。八木隆裕氏は、京都、茶筒の開化堂の6代当主です。創業当時より作り続けてきた茶筒の技術習得に励む傍ら、B to BからB to Cへと客層を導き、国内のみならず海外へと積極的に展開、世界のお茶関係からデザイン、インテリアへと領域を拡大しています。ガラス造形作家の西中千人氏は命の煌めき・再生・永遠の循環をテーマに、古の日本の美にインスパイアされたガラス表現を追求し、代表作は金継の美意識を礎とした「ガラスの呼継」と宇宙と命のつながりをメッセージとしたアート空間です。近年は持続可能な社会の実現を提言するアートに取り組んでいます。

「1200年後の世界」とのかかわり

1200年後の私たちの環境と生活、文化はどう変わっているのか。それは、産業革命以降の100年余を総括して、我々の世界を変革する持続可能な開発や、今後の私たちの思想とその行動が反映されていくだろう。芸術デザインという視点を通して、物質中心の拡張主義から解き放たれた、日本の新たな芸術の方向性を考察する。

[ホスト & ゲスト] 伊藤志信 / 桐本泰一 / 八木隆裕 / 西中千人

作品展示対面ショートセッション

登壇者3名によるタンジブルなショートトークセッション

SESSION 02 高野山と宇宙 統括：吉本英樹

日時：7月11日(木) 9時30分～11時30分 場所：金剛峯寺大会議室

宇宙 / 天文 / 密教 / 観念

セッション概要

高野山は、その地理的特性からも「宇宙」を感じさせる場所です。標高800メートルの山上に広がる高野山は、雲海に包まれることも多く、まるで空の中に浮かぶ島のようにも感じます。また星空も非常に美しく、夜空を見上げると無数の星々が広がり、その星々の連なりを目で追っていくと、自分がいま地球という惑星に立って宇宙の中に存在しているんだということを、意識せざるを得ません。

そして、その高野山で実践されてきた弘法大師空海の教えも、やはり宇宙と深く結びついています。密教の象徴ともいえる曼荼羅は、宇宙の秩序や法則を描いたものであり、空海はこれを用いて、我々の存在が宇宙と密接に結びついていることを説きました。密教の教えにおける宇宙観は、全ての存在が相互に関連し合う「縁起」の思想と結びついていると言われます。これは、宇宙の中で我々が孤立して存在するのではなく、あらゆるものが互いに影響し合いながら、その関係性の中で存在しているのだという考えです。この縁起の思想は、現代の科学的な宇宙論とも通じるものがあるように感じます。ビッグバン理論により宇宙が一つの点から始まり、膨張し続けているという現代の宇宙論も、全てが一つの起源から連鎖的に展開しているようなイメージを想起します。

本セッション「高野山と宇宙」では、高野山の地において、我々と宇宙の繋がりに考えを馳せることで、改めて、我々の存在について議論をするセッションです。ご登壇者は、学校法人高野山学園法人本部長であり高野山報恩院住職の山口文章氏、国立天文台天文情報センター上席教授の渡部潤一氏、写真家の上田優紀氏、JAXA宇宙探査イノベーションハブ・ハブマネージャの大塚成志氏。宗教、天文学、芸術、宇宙開発という、それぞれに異なる視点から宇宙を見つめている各氏とのディスカッションを通じて、宇宙の中での自分の位置を再確認し、希望あふれる未来へのイメージと一緒に観念することができればと考えています。

高野山の宇宙観は、我々が宇宙とどのように関わり合いながら生きるべきかを示す重要な指針を与えてくれるはずです。本セッションが、他にはない、ユニークな宇宙への視点を得る場になることを目指したいと思います。

「1200年後の世界」とのかかわり

真言密教に伝わる瞑想法、月輪観や阿字観は、自己と全宇宙が一体となることを観念せよと言われていました。それに代表されるように、高野山の教えにおいては、1200年以上前から、我々自身と宇宙全体との繋がりについて様々な想いと考えが巡らされたきたものと思います。その間、宇宙と人類の関係は極めて大きく変わりました。コペルニクスが地動説を説いたのも高々500年前、世界で初めて宇宙空間に達したとされるA4ロケットが打ち上げられたのはまだ80年前です。今から1200年後、宇宙は今では想像できないほど人類にとって身近な存在になることは間違いないでしょうし、それによる大きな恩恵や、あるいは新しい脅威も生まれるでしょう。1200年後の宇宙と我々の姿を想像するのに、高野山ほど最適な場所は無いと思います。

【ホスト & ゲスト】 吉本英樹 / 上田優紀 / 大塚成志 / 山口文章 / 渡部潤一

SESSION 03 インクルーシブデザイン 統括：伊藤節

日時：7月11日(木) 13時30分～15時30分 場所：黎明館

デザインフォーオール / ダイバーシティ / バリアフリー / ユニバーサルデザイン / 当事者研究

セッション概要

複雑混迷を極める今日の地球規模の環境・社会問題の中で、自然の一部である人類はいかに人間性を回復し、人間の内なる自然も含む自然と共生し、本来の自然に近い姿で生きていけるのでしょうか？私たち先端アートデザイン分野が進めているアートデザイン活動は、人が人間らしく自然に生きるために必要な原動力であり、この問いに対する複合的な解を生むための有効な手段です。

その中でも、属性や人格の違いに関わらず全ての人が尊重されるインクルーシブソサエティを実現させるために、高齢者、障害者といったエクストリームユーザーの気付きやアイデアを反映させるインクルーシブデザインは、今日的な自然性・人間性復興のためのデザイン手法と位置付けています。インクルーシブデザインはバリアフリーデザインの1つの思考、方法論ですが、決してマイノリティのためだけのエクストリームなデザイン思考ではありません。実際世界的な大企業の一部がインクルーシブデザインを重要な企業戦略として取り入れています。デザイン開発を一緒に考えていくエクストリームユーザーの気付きやアイデアには、これまでデザインが対象としてきた一般的なマジョリティユーザーにはなかった新しい着眼点があり、ここから生まれる新しいデザインコンセプトは、より多くの人に受け入れられるメインストリームのデザイン開発に繋がる可能性が高いと考えています。

本セッションではインクルーシブソサエティやインクルーシブデザインのあり方について毎年様々な議論を展開していますが、今年はゲスト登壇者として先端研バリアフリー分野を創設された全盲ろうの著名バリアフリー研究家の福島智先生、作家で聞こえる世界と聞こえない世界をつなぐユニバーサルデザインアドバイザーの松森果林さん、そして資生堂クリエイティブ株式会社クリエイティブディレクターで、資生堂インクルーシブデザイン研究、ユニバーサルビューティプロジェクトを推進されている和久井裕史さん、塩田笑子さんを迎え、先端研インクルーシブデザインラボの並木重宏先生にもリモートでご参加いただき、パネルディスカッションを展開します。全ろう、全盲ろうの研究者が考えるインクルーシブソサエティとは、美を追求する企業デザイナーが考える人の根源的インクルーシブビューティとは。多角的な視点で未来の包摂社会のあり方について議論して行きます。

「1200年後の世界」とのかかわり

2400年前のギリシャ、ローマ、600年前のイタリア・ルネッサンスのレオナルドダヴィンチらが継承してきた西洋科学技術の発展、そしてここ150年で体験してきた4つの産業革命を通して、現代の私たち人類は科学技術の大きな発展の恵みとともに、人間中心の科学技術がもたらした自然体系破壊や人間間の紛争による破滅の危機をも孕んでいます。1200年前に高野山の空海が説いた宇宙や自然と一体化する東洋的な包摂思想は、今後600年、1200年、2400年後の社会を継続発展させていくための大きな指針になります。未来の人材や社会を構築していくための教育やデザインも、人を含む自然界の多様性あふれる個性を互いに尊重しつつみんなで協力し合い、人材を育成、社会をコ・デザインしていくことが大切です。

【ホスト & ゲスト】 伊藤節 / 福島智 / 松森果林 / 和久井裕史 / 塩田笑子 / 並木重宏

SESSION 04 次世代育成 ～悠久の絆を包摂する環境創造「まちづくり」～

統括：近藤薫

日時：7月11日(木) 16時00分～17時15分 場所：金剛峯寺大会議室

まちづくり / 地域社会 / 世界遺産 / 環境創造 / SDGs

セッション概要

社会とは文化・価値観・倫理観・信念、そういったものを共有する人の集まりであり、人類は歴史上より良い社会、より豊かな社会を常に築かんとしてきました。しかし、豊かに見える社会ほど閉塞感に見舞われ、生物内でエントロピーが増大していくように社会そのものが衰退していく—これは、社会を体系的にシステムチックにデザインする概念が運命的に陥る「価値観の収束」に端を発します。皮肉なことに、成熟・安定した社会を望むほどにシステムは強固になり価値観はより収束され、新陳代謝が滞り、多様性を失い、自らの社会が生み出した問題を自らで解決できなくなってしまいます。現在の「まちづくり」の考え方は、持続可能性と共生の考えにシフトしてきていると言われています。エネルギー効率の高い建築物、再生可能エネルギーの導入、緑地の拡充など環境保護を重視した都市設計が推進されています。また、スマートシティ技術の活用により、交通管理、エネルギー効率化、公共サービスの最適化が実現され、多様なニーズに応じた柔軟な都市開発が行われています。しかし、これは本当に1200年持続可能な「まちづくり」なのでしょうか。インフラの整備、快適な生活空間の確保など、ハード面の拡充に傾倒することが必要条件に近い文明の維持は、社会全体の人間性の欠如には全く対応できず、本来私たちが真っ先に取り掛からねばならない自然環境との共存は、どこまでも夢物語で、理想郷の域を超えません。

高野山会議 2024 では、今年の次世代育成セッション「STEAM 教育と芸術環境創造」に引き続き、人を育むために必要な環境創造＝「まちづくり」を話題にします。

私たちがつなぎ残していくべき、悠久の絆とは何なのでしょう？

1人目の登壇者は丹生都比売神社宮司の丹生晃市氏です。紀伊山地が世界遺産に登録された背景の本質と、丹生都比売神社とともに歩む「まちづくり」についてお話しいたします。2人目の登壇者は、前愛知県長久手市長の吉田一平氏です。在職中、「分かちあい」「助けあい」「みどり」の3つのフラッグを政策の礎とし、本質をついた目指すべき未来社会のための「まちづくり」を牽引した御仁に、その深く優しい哲学を語っていただきます。

「1200年後の世界」とのかかわり

『人間とは社会的な動物である』古代ギリシアの哲学者アリストテレスがそう語ったのはおよそ2500年前。これまで人類の歴史上、さまざまな地域、時代に合わせ、さまざまな社会が形成されてきました。または社会そのものが地域や時代の概念を作ってきたとも言えるでしょう。近代化以降、社会そのものが手掛けてきた「まちづくり」は都市化、効率化の一途を辿り、世界の姿を一変させました。1200年後の世界を考えると、1200年後の社会のあり方を考えることでもあるのです。

[ホスト & ゲスト] 近藤薫 / 吉田一平 / 丹生晃市

SESSION 05

先端科学技術研究センター×南方熊楠顕彰会×高野山大学
“世界遺産登録20周年記念シンポジウム with 高野山会議”

紀伊山地に育まれた精神性と 自然から世界に伝えること

統括：神崎亮平

日時：7月12日(金) 15時30分～18時00分 場所：黎明館

世界遺産登録20周年 / 高野山 / 熊野 / 空海 / 南方熊楠 / 科学技術

セッション概要

「高野山会議」は、科学者、芸術家、哲学者、宗教家をはじめ多くの皆さんが集い、1200年後の先々までをも見据え、人としてよりよい在り方を、自然を通して体感し、対話を通して考え、そしてそれを実践し実現していくこととする「場」です。世界では今、人類がもたらした環境問題をはじめとするさまざまな課題、さらには戦争や紛争も絶えない状況が続いています。“いのち”やそれをめぐむ“自然”の大切さはもちろんのことですが、あらためてその大切さや人本来の“こころ”に気づく人々を増やし、1200年後まで“いのち”や“利他”のこころの大切さを発信し続けていくことが、安寧でWell-beingな社会を実現していくうえで必要不可欠です。

先端研・先端アートデザイン分野では、高野山大学と連携して、「マンダラプロジェクト」を立ち上げ、1200年前に空海が体得した自然とつながり、“いのち”や“利他”のこころの大切さを感じ、人本来の「こころ」に気づく世界観を、自然(宇宙)との触れ合いや、科学者、芸術家、哲学者、宗教家、そしてさまざまな皆さんとの対話や議論を通して形にして、多くの皆さんにそのような世界観に触れていただき、“いのち”や“利他”のこころの大切さを体感いただく試みを進めています。

本年2024年は「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されて20周年を迎えたこともあり、このセッションでは、“いのち”や“利他”のこころの大切さを、紀伊山地に育まれた精神性と自然から再考し、世界に伝えることの意義について、弘法大師空海や南方熊楠の視座についてのお話(松長潤慶、藤原和博、田村義也)、またこのような精神性をめぐむ地元の首長(真砂充敏田辺市長、平野嘉也高野町長)のお話、そしてパネルディスカッションを通して、みなさんと考えてみたいと思います。

「1200年後の世界」とのかかわり

世界では今、人類がもたらした環境問題をはじめとするさまざまな課題、さらには戦争や紛争も絶えない状況が続いています。“いのち”やそれをめぐむ自然の大切さはもちろんのことですが、あらためてその大切さや人本来の“こころ”に気づく人々を増やし、1200年後まで“いのち”の大切さを発信し続けていくことが、安寧でWell-beingな社会を実現していくうえで必要不可欠です。

[ホスト & ゲスト] 神崎亮平 / 松長潤慶 / 藤原和博 / 真砂充敏 / 平野嘉也 / 田村義也

SESSION 06 ひととはなぜ戦争をするのか? ALL RCAST 統括：杉山正和

日時：7月13日(土) 9時00分～11時30分 場所：高野山大学201大教室

先端技術と倫理 / より良き生存 / 持続可能性 / 国際関係

セッション概要

国際連盟の依頼から始まったアインシュタインとフロイトの往復書簡(1933年に出版)の中で、二人はこの人類と地球の生存について本質的に重要なテーマについて、当時の知識や知見を基調に真摯な議論を展開した。

それから90年経った今も、人類は戦争を繰り返している。現在の科学技術論、そして哲学・宗教を含めた分野横断的な議論を改めて試み、より良き生存の実現に向けた施策を多面的に探る。

セッション構成

司会：杉山正和(東京大学先端科学技術研究センター所長・教授)

A. 話題提供

1. アインシュタインの当時の思い、現在への示唆(物理学と神経科学の視座から)

相手はなぜフロイトなのか?

—小泉 英明(東京大学先端科学技術研究センター フェロー—脳神経科学)

2. フロイトの当時の思い、現在への示唆(哲学と心理学の視座から)

当時の哲学者・心理学者の考え方、今ならどのような返答がなされるだろうか?

—中島隆博(東京大学東洋文化研究所長—中国哲学、比較哲学、表象文化論)

B. ディスカッション

宇野重規(東京大学社会科学研究所長—政治思想史・政治哲学)

太田博樹(東京大学理学系研究科教授—ゲノム人類学)

池内恵(東京大学先端科学技術研究センター教授—グローバルセキュリティ・宗教)

国末憲人(東京大学先端科学技術研究センター特任教授—国際ジャーナリズム)

「1200年後の世界」とのかかわり

より良き生存を目指すべき人類はその誕生以来殺し合いを続け、科学技術が高度に発展した現在も戦争のない世界は実現できていない。それどころか、核兵器により人類の戦争が地球全体を壊滅させる危機が顕在化している。科学技術の進歩に対応した「新しい啓蒙」を発展させ、人間中心の世界観から、人間が自然の一部として調和を目指す世界観を構築することで、私たちは1200年後の世界を考えるための入口に立てるのではないだろうか。

【ホスト & ゲスト】 杉山正和 / 小泉英明 / 中島隆博 / 宇野重規 / 太田博樹 / 池内恵 / 国末憲人

ナイトエクスカージョン 夜の奥之院散策

日時：7月10日(水) 19時30分～21時00分

場所：奥之院

弘法大師空海が祈りを続ける奥之院。高野山の中でもより静謐な空気感に満たされた空間を、杉木立にとる灯籠を頼りに散策します。



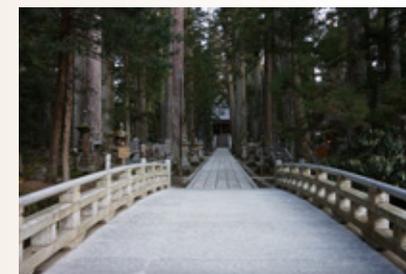
山内エクスカージョン

日時：7月11日(木) 8時00分～9時00分

場所：壇上伽藍

高野山の大切な道場であり、奥之院とともに世界遺産の中心的エリアである壇上伽藍をご案内いただきます。

【ご案内】 高野山執務公室長 藪邦彦



高野山麓エクスカージョン

日時：7月12日(金) 8時00分～15時00分

伝統工芸品「紀州へら竿」を訪ねて

和歌山県橋本市

(清水/紀州製竿組合)



薔薇と神社と天野を考えるワークショップ

和歌山県かつらぎ町

(天野/天野の里づくりの会・丹生都比売神社)



高野山会議 2024 公式レセプション

日時：7月11日(木) 18時30分～20時30分 場所：黎明館

ホスト挨拶 和歌山県知事 岸本周平、高野山大学長 添田隆昭

協賛自治体 高野町、橋本市、かつらぎ町、和歌山県

多くの企業、団体の皆様から協賛・協力をいただき御礼申し上げます。当日配布資料及び高野山会議2024報告書にて報告させていただきます。

コンサートシリーズ meets

日時：7月11日(木) 11時45分～12時15分

場所：金剛峯寺本坊

[プログラム] J.S. バッハ

無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番
BWV.1004

[出演] 堀米ゆづ子(ヴァイオリン)



©Samon
1980年桐朋学園大学卒業。同年エリザベト王妃国際音楽コンクールで日本人初の優勝を飾る。世界中の一流オーケストラ、指揮者との共演を重ね、室内楽や後進の育成にも熱心に取り組む。現在、マーストリヒト音楽院教授、仙台国際音楽コンクール審査委員長。

スペシャルトーク&ライブ

「21世紀に求められる感性・身体性と人材育成」
～多様ないのちが輝く包摂的社会へ：音楽や踊りを通して～

日時：7月11日(木) 17時45分～18時15分 場所：黎明館

セッション概要

激動の21世紀、多様な個性や特性を生かした社会を構築し、感性や身体性をも生かして生きる即興力が大切となります。密教における「身口意」の三密を体験的に捉え、多様な方やSTEAM的世界と協奏する醍醐味を味わう時間としたいと考えています。

[ホスト & ゲスト] 中島さち子(大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー、音楽×数学×STEAM教育) チェジュエチオル(韓国太鼓(チャンゴ)演奏家、国際文化交流事業企画者) 他

日時：7月13日(土) 13時00分～15時00分 場所：黎明館

ホスト挨拶・総評

東京大学先端科学技術研究センター所長・教授 杉山正和

高野山宣言2024

クラシックコンサート

[プログラム] 早川正昭 バロック風日本の四季より「夏」
A. ヴィヴァルディ ヴァイオリン協奏曲集
『和声と創意の試み』作品8【四季】より「夏」
A. ピアソラ プェノスアイレスの冬
他

[出演] 演奏：高野山会議 2024 スペシャル
弦楽アンサンブル(総監督：近藤薫)
中野振一郎(チェンバロ奏者)



高野山会議2023コンサートの様子

講師紹介

高野山會議

K
O
Y
A
S
A
N
C
O
N
F
E
R
E
N
C
E
2024



東京大学先端科学技術研究センター 特任准教授

伊藤志信

デザイナー。ミラノ工科大学特任教授、多摩美術大学客員教授、東京大学先端科学技術研究センター特任准教授。プロダクトから空間、先行開発まで多岐にわたるデザインを行い、数多くの作品を発表、また空間やプロダクトデザインのコンサルタントを行っている。世界各地の展示会に参加、多くの媒体に作品が掲載されている。「Woman Made great woman designers」掲載。IF design/独、ゴールデンコンパス/伊、Reddot Award/独、等の国際デザイン賞を受賞。2019年の空間作品により「Mastro d'arte della pietra」の称号を授与する。



輪島キリモト代表
桐本泰一

石川県輪島市生まれ。筑波大学卒業。コクヨ株式会社勤務後、200年以上七代にわたって「木と漆」の仕事に携わってきた輪島の桐本家に帰郷。木地業の弟子修行を行い、デザインと造形提案、漆器監修等を行う。代表に就任後、商号を「輪島キリモト」とし、多くの産地内の職人達と交流しながら、木工製品や漆の器、小物、家具、建築内装材に至るまで、木と漆が今の暮らしにどれだけ様々な可能性に挑戦している。2018年第2回三井ゴールデン匠賞グランプリ受賞。



開化堂6代目
八木隆裕

京都、茶筒の開化堂6代目。創業当時より作り続けてきた茶筒の技術習得に励む傍ら、BtoBからBtoCへと客層を導いた。国内のみならず海外へと積極的に事業を展開、世界のお茶関係を中心に、デザイン、インテリアへと領域を拡大している。京都の伝統工芸を担う若手後継者によるプロジェクトGO ONを結成し、国内外で伝統工芸を広める活動を行う。Victoria&Albert museum、パリ装飾美術館、コペンハーゲンデザインミュージアム等に収蔵されている。京都精華大学特別協同研究員。



東京大学先端科学技術研究センター所長・教授

杉山正和

専門はエネルギーシステム分野。2000年、東京大学大学院工学系研究科化学システム工学専攻博士課程修了。博士(工学)。2016年、東京大学大学院工学系研究科教授、2017年より東京大学先端科学技術研究センター教授、2022年4月より所長を務める。



東京大学名誉教授・東京大学先端科学技術研究センターシニアリサーチフェロー

神崎亮平

筑波大教授を経て2004年より東大教授。2006年より先端科学技術研究センター教授。2016年から2022年まで同所長。生物知能を工学に活用する研究に従事。橋本市文化賞(2015)、和歌山県文化(2020)、ミラノビコッカ大学名誉学位(2019)。2021年より「高野山會議」を主宰。2024年4月より橋本市岡潔数学体験館名誉館長。JSTさきがけ「生体多感覚システム」研究総括。日本のSTEAM教育を推進するJST次世代人材育成事業STELLA「次世代科学技術チャレンジプログラム」推進委員長を務める。



音楽家、東京音楽大学教授

小森輝彦

東京藝術大学、同大学院、文化庁オペラ研修所で学ぶ。文化庁在外研修員としてベルリンに留学。プラハ国立歌劇場「椿姫」ジェルモンで欧州デビュー後、アルテンブルク・ゲラ市立劇場専属歌手として12年活躍し、演じた役は70を超える。帰国後も流麗な歌唱と強い存在感で数多くの主役を務めている。「R.シュトラウス歌曲集」はレコード芸術誌で準特選盤。日本人初のドイツ宮廷歌手。東京音楽大学教授。東京音楽大学付属高等学校前校長。二期会会員。



ガラス造形作家

西中千人

カリフォルニア美術大学で彫刻とガラスアートを学ぶ。「命の煌めき・再生・永遠の循環」をテーマに、古の日本の美にインスパイアされたガラス表現を追求。代表作は金継の美意識を礎とした「ガラスの呼継」と宇宙と命のつながりをメッセージとしたアート空間。近年は持続可能な社会の実現を提言するアートに取り組む。リサイクルガラスによる世界初の枯山水「つながる」を2019年京都法然院に奉納。「未来の伝統を今、作る」を哲学として活動。



東京大学先端科学技術研究センター 特任准教授

吉本英樹

東京大学工学部航空宇宙工学科、同修士課程修了。その後渡英し、2016年英国 Royal College of Art, Innovation Design Engineering 学科博士課程修了。2015年にロンドンで Tangent Design and Invention Ltd 創業。2020年より東京大学先端科学技術研究センター特任准教授。工学とデザインのハイブリッドな分野で活躍し、両分野で受賞多数。自身のスタジオ「TANGENT」では、多国籍なチームを率い、世界的な高級ブランドを顧客に、プロダクト開発から展示会ディレクションまで様々なデザインプロジェクトを手がける。2021年和歌山県文化奨励賞を受賞。



写真家

上田優紀

1988年和歌山県出身。京都外国語大学を卒業後24歳の時に世界一周の旅に出発。1年半かけて45か国を周る。帰国後株式会社アマナに入社。2016年よりフリーランスとなり、想像もできない風景を多くの人に届けるために世界中の極地、僻地を旅しながら撮影を行なっている。近年はヒマラヤの8000m峰から水中、南極まで活動範囲を広め、2021年にはエベレスト(8848m)を登頂。2017年 Canon「SHINES」品川一治選を受賞、写真集「Ama Dablam」(2018年)、「空と大地の間、夢と現の境界線—Everest—」(2022年)、著書「エベレストの空」(2022年)がある。



JAXA宇宙探査イノベーションハブ ハブマネージャ

大塚成志

1992年慶應義塾大学商学部卒業、宇宙開発事業団(NASDA)に入社。2003年に三機関統合により宇宙航空研究開発機構(JAXA)が発足。宇宙輸送技術部門事業推進部計画マネージャ、広報部 企画・普及課長等を経て、現在、宇宙探査イノベーションハブ・ハブマネージャ。種子島に赴任して2011年に森脇裕之多摩美術大学准教授(現教授)らと出会い、種子島宇宙芸術祭の立ち上げに参画。現在は種子島宇宙芸術祭実行委員会アドバイザーも務める。



学校法人高野山学園法人本部長

山口文章

京都府立大学大学院農学研究科林学専攻博士課程単位取得退学。総本山金剛峯寺職員、高野町教育長、高野山真言宗山本部長、高野山真言宗総長公室長、高野山開創1200年記念大法会事務局長、高野山霊宝館長等を経て、現在、高野山報恩院住職、学校法人高野山学園法人本部長。主な著書に「新・高野百景」其の壱～参(教育評論社、2006-2010)がある。



大学共同利用機構法人自然科学研究機構 国立天文台 天文情報センター 上席教授

渡部潤一

1960年、福島県生まれ。東京大学大学院、東京大学東京天文台を経て、自然科学研究機構国立天文台上席教授、総合研究大学院大学教授。国際天文学連合副会長。理学博士。太陽系小天体の研究の傍ら、講演、執筆、メディア出演でも活躍。国際天文学連合では、惑星定義委員として準惑星という新カテゴリーを誕生させ、冥王星をその座に据えた。著書に「賢治と「星」を見る」(NHK出版)、「古代文明と星空の謎」(筑摩書房)、「第二の地球が見つかる日」(朝日新聞出版)など多数。



東京大学先端科学技術研究センター 特任教授

伊藤節

筑波大学大学院芸術研究科修了。1995年ミラノにデザイン会社を設立。建築、インテリアからプロダクト、クラフトまで多岐にわたるデザインを手掛け、作品はミュンヘンとミラノの近代美術館に永久収蔵されている。ゴールドコンパス賞(2011伊)、Reddot Best of the Best 賞(2016独)、iF Design 賞(2022独)、Good Design賞(2018、2022米)など多くの国際デザイン賞を受賞。ドムスカデミー、ベネツィア大学、ミラノ工科大学特任教授、筑波大学芸術系教授、東京大学先端科学技術研究センター特任教授。



東京大学先端科学技術研究センター 特任教授

福島智

1962年神戸市生まれ。9歳で失明、18歳で聴力を失い、全盲ろう者となる。1983年、東京都立大学に入学。盲ろう者としては日本初の大学進学者。同大博士課程、同大助手、金沢大学助教授を経て、2001年に東京大学先端科学技術研究センター助教授、2008年から同センター教授、2023年度～同特任教授。1991年～全国盲ろう者協会理事。盲ろう者として正規の大学教員就任は、世界初と言われる。専攻は障害学。博士(学術)。



東京大学先端科学技術研究センター 准教授

並木重宏

東京大学先端科学技術研究センター准教授。筑波大学で生物学の博士号を取得した後に、米国ハーワードヒューズ医学研究所において動物飛行の研究に従事する。この間神経難病が進行して帰国、長期間の入院の後、車椅子を使って大学に復帰する。東京大学着任後はバリアフリー分野への関心から、インクルーシブデザインラボラトリーを立ち上げ、実験室のアクセシビリティに関わる研究に取り組んでいる。



聞こえる世界と聞こえない世界をつなぐ ユニバーサルデザインアドバイザー

松森果林

中途失聴者。学生時代に東京ディズニーランドのバリアフリー研究を行ったことをきっかけに、社会の課題を楽しく解決したいと(株)オリエンタルランド勤務を経て独立。聞こえる世界と聞こえない世界の両方を知る立場から、ユニバーサルデザインやDE&Iに関するコンサル、講演、執筆、研修講師を空港からエンターテイメントまで手がける。内閣府障害者政策委員会委員歴任(2014-2016)。2017年よりドイツ発祥、静寂の世界で言葉を使わず対話を楽しむ「ダイアログ・イン・サイレンス」を企画監修し、日本初開催を実現させ現在も注力。強みは聞こえないこと。



資生堂クリエイティブ株式会社 クリエイティブプロダクトディレクター

和久井裕史

東京藝術大学デザイン科を卒業後(卒業制作デザイン賞受賞)、同大学院修士課程修了。(株)資生堂に入社後、国内外のスキンケアブランドの製品デザイン開発、2014年から22年まで資生堂パリオフィにて SERGE LUTENSブランドのフレグランス・メーキャップの製品デザイン開発に従事。帰国後、先端アートデザイン分野に参画し、インクルーシブデザインの思想を、既存の製品に取り入れる仕組みをデザイン・研究している。



資生堂クリエイティブ株式会社 クリエイティブプロダクトディレクター

塩田笑子

2000年武蔵野美術大学卒業。広告制作、洋食器のデザインに携わり、2007年に資生堂入社。以後、自社製品のプロダクトデザインに従事しながら、資生堂クリエイティブオリジナルの活動Universal Beauty Designのリーダーとしてプロジェクトを推進している。すべての人にとっての「美しい」デザインとは何か。決して見た目だけではなく、すべての人が美しく過ごせる本質的なデザインを模索中。



東京大学先端科学技術研究センター 特任教授

近藤薫

東京藝術大学をアカンサス賞を受賞して卒業後、同大学院修士課程修了。東京フィルハーモニー交響楽団およびFuture Orchestra Classics コンサートマスター、バンクーバー・メトロポリタン・オーケストラ首席客演コンサートマスター、リヴァラン弦楽四重奏団主宰。東京大学先端科学技術センター先端アートデザイン分野特任教授。東京音楽大学、洗足音楽大学講師。JST「きぎげ」領域運営アドバイザー。東京フィル創設時のコンサートマスター近藤富雄は祖父で、三世に渡ってヴァイオリニスト。愛知県出身。



前長久手市長

吉田一平

昭和21年4月愛知県長久手村生まれ。高校卒業後、15年間、商社に勤める。サラリーマン時代に地元の消防団団長を務め、その際に地域の人から「ありがとう」と言われることで自治に目覚める。昭和56年、区画整理で失われつつあった長久手の緑を残そうと幼稚園を始める。その後、社会福祉法人愛知たわいようの杜理事長を経て、平成23年9月、長久手町長に就任。平成24年1月の市制施行により初代市長。令和5年9月に長久手市を退任。趣味は人と会うこと、人と話すこと。



丹生都比売神社司宮

丹生晃市

國學院大学文学部神道学科卒業。神社本庁事業課長、教学研究所資料室主任等を経て、1985年から丹生都比売神社権禰宜兼務となり、2006年、宮司に就任して、現在に至る。累代の惣神主家から九州に分家した血筋にあたる。「丹生都比売神社史」(2009)の刊行、世界遺産の登録理由となった日本人の神仏共存の「いのり」と心」を次世代を担う子どもたちと国内外の人々に伝える活動を行っている。



音楽家・数学研究者・STEAM 教育者

中島さち子

(株)steAm 代表取締役、(一社)steAm BAND 代表理事、大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー、内閣府 STEM Girls Ambassador、東京大学大学院数理科学研究科特任研究員。国際数学オリンピック金メダリスト。音楽数学教育と共にアート&テクノロジーの研究も進める。



高野山大学副学長

松長潤慶

1996年に高野山大学文学研究科博士後期課程密教学専攻終了(博士(密教学))。高野山大学文学部密教学科准教授(2015年)を経て、2018年に高野山大学文学部密教学科教授。2021年より高野山大学副学長。専門は密教学、密教図像学。



富士通株式会社 デザインセンター クリエイティブディレクター/チーフデザイナー

藤原和博

1995年東北工業大学工業意匠学科卒業。2022年より先端アート講座研究員。2001年より富士通株式会社で自社製品のプロダクトデザイン、ブランディングを行い、その後、クライアント企業向けの新規事業創出支援、VRコンテンツ開発、クラウドファンディングによるテストマーケティング、デザイン思考の社内浸透などを手掛ける。現在はどうしたらITテクノロジーがこの世界の調和に貢献できるのかを探求中。



南方熊楠顕彰会常任理事・学術部長 成城大学非常勤講師

田村義也

成城大学非常勤講師、南方熊楠顕彰会常任理事・学術部長、南方熊楠研究会運営委員、国立科学博物館2017年度企画展「南方熊楠 100年早かった智の人」企画委員、共編著「南方熊楠大事典」国立科学博物館2017年度企画展「南方熊楠 100年早かった智の人」企画委員をはじめ、各地で講演を行うなど南方熊楠研究の最前線で熊楠の魅力を発信している。共編著に「南方熊楠大事典」(勉誠出版、2012)他。



田辺市長

真砂充敏

田辺市長。1957年、和歌山県生まれ。和歌山県中辺路町議会議員を経て1996年7月、中辺路町長に就任。2005年5月、新制田辺市(旧制田辺市・龍神村・中辺路町・大塔村・本宮町の合併により発足)の初代市長に就任、現在5期目。世界遺産の巡礼道である熊野古道とサンティアゴ・デ・コンボステラとの共通巡礼等、熊野の精神性を大切に交流の仕組みづくりや、SDGs自治体モデル事業「1000年をつなぐ田辺市熊野SDGsプロジェクト」をはじめ「たなべ未来創造塾」など次世代に繋ぐ事業を展開している。



高野町長

平野嘉也

和歌山県高野町長。和歌山県高野町出身。2014年5月、高野町長に初当選。現在3期目。町長就任前には薬剤師として勤務する傍ら、様々な社会貢献活動に従事。町長就任後は2017年から和歌山県伊都郡町村会長を2期務めた。近年では、「農業遺産」「日本遺産」認定活動や、公立学校では珍しい9年間の英語教育プログラムを導入。「訪れる人に感動を、住む人に満足を」を公約として小規模多機能診療所の充実や林間学校や企業研修、学会等の積極的な誘致活動に取り組んでいる。



東京大学先端科学技術研究センター フェロー

小泉英明

理学博士。専門は分析科学、脳科学、環境科学。偏光ゼーマン原子吸光法の創出・実用化による環境計測、開発したMRIや光トポグラフィ法による脳機能計測技術を通じて、「脳科学と教育」など新たな学術分野の発展に寄与している。日立製作所名誉フェロー、日本工学会アカデミー顧問(前上級副会長、前国際委員長)をつとめる。



東京大学東洋文化研究所長・教授

中島隆博

専門は中国哲学、世界哲学。東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退。現在、東京大学東洋文化研究所教授。主な著書に「共生のプラクティス」(東京大学出版会、和辻哲郎文化賞受賞)、「思想としての言語」(岩波書店)、「日本を解き放つ」(共著、東京大学出版会)、「荘子の哲学」(講談社学術文庫)、「中国哲学史」(中公新書)、「日本の近代思想を読みなおす1 哲学」(東京大学出版会)他。



東京大学社会科学研究所長・教授

宇野重規

専門は政治思想史、政治哲学。東京大学大学院法学政治学研究所博士課程修了(法学)。千葉大学法経学部助教授などを経て現職。主な著作に「政治哲学へ：現代フランスとの対話」(2004、増補新版2019)、「トクヴィル 平等と不平等の理論家」(2007、講談社選書メチエ、講談社学術文庫版2019)、「保守主義とは何：フランス革命から現代日本まで」(2016、中公新書)、「民主主義とは何か」(2020、中公新書)など。



東京大学理学系研究科 教授

太田博樹

専門は、人類集団遺伝学、分子人類進化学、ゲノム人類学。1997年、東京大学・理学系研究科にて博士(理学)修得。1999年、マックスプランク進化人類学研究所、2001年、イェール大学医学部での博士研究員を経て、2005年、東京大学・新領域創成科学研究科にて助教。2010年、北里大学医学部に准教授。2019年より現職。主な著書:「古代ゲノムから見たサビエンス史(吉川弘文館)」太田博樹(2023)[著]、「遺伝人類学入門(ちくま新書)」など。



東京大学先端科学技術研究センター 教授

池内恵

専門はイスラム政治思想、政治学。東京大学文学部イスラム学科卒業。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学。日本貿易振興機構アジア経済研究所研究員、国際日本文化研究センター准教授を経て、2008年10月より現職。著書に「現代アラブの社会思想」(大佛次郎論壇賞)、「書物の運命」(毎日書評賞)、「アラブ政治の今を読む」、「イスラム世界の論じ方」(サントリ学芸賞)、「中東 危機の震源を読む」、「イスラム国の衝撃」(毎日出版文化賞特別賞)、「サイクス=ピコ協定 百年の呪縛」などがある。第12回中曾根康弘賞優秀賞受賞。



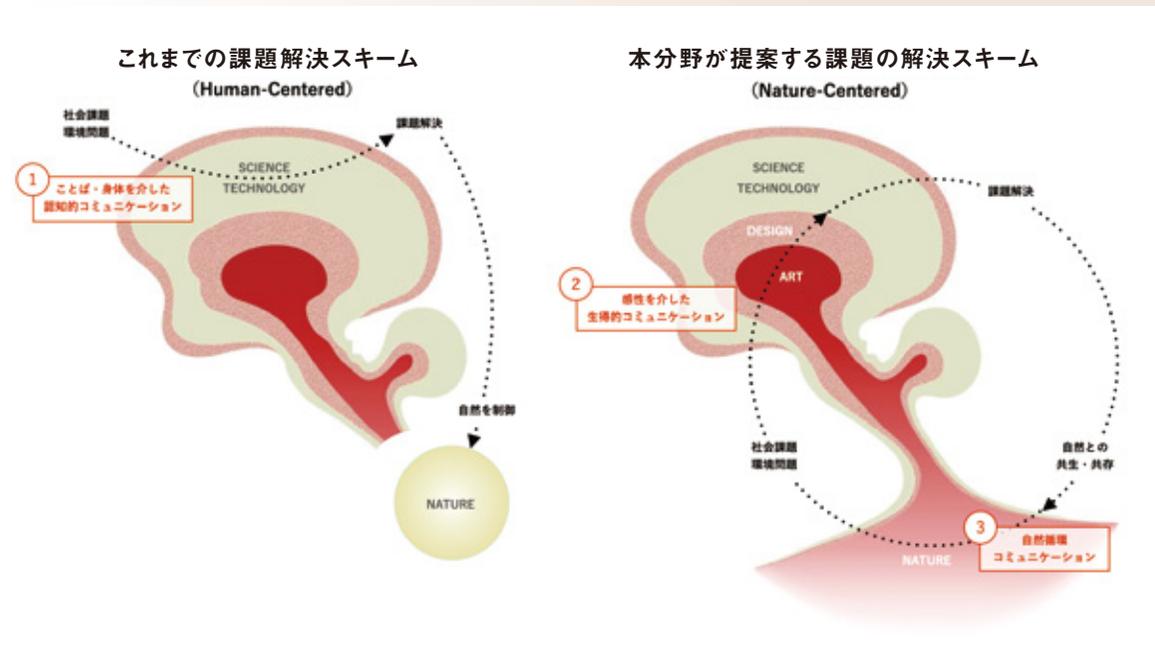
東京大学先端科学技術研究センター 特任教授

国末憲人

専攻は欧州政治、紛争研究。1963年岡山県生まれ。1985年大阪大学卒業。1987年に紀行「アフリカの街角から --サバンナ人間紀行」で第3回ノンフィクション朝日ジャーナル大賞優秀賞を受賞。同年、パリ第二大学新聞研究所を中退し、朝日新聞社に入社。パリ支局長、GLOBE編集長、ヨーロッパ総局長、論説委員などを務め、2023年退職。2024年1月より現職。著書に「イラク戦争の深淵」「ユネスコ「無形文化遺産」」「テロリストの誕生」「ロシア・ウクライナ戦争 近景と遠景」など。

「先端アートデザイン分野」 「最適解」だけでなく「多角的な解」を

複雑化する社会課題には、科学技術が導く局所的な最適解や西洋の対処療法的な問題解決だけでは対処できなくなっています。モノづくり（科学技術）は、職人、機能の時代を経て、人間主義（Human-Centered）へと進化し、多くの糧を人類にもたらしました。一方で、予期せぬ地球規模の社会問題を引き起こしています。多様な人からなる複雑な社会では、未来の人類や環境、地球を見据えた、自然を中心とする「Nature-Centered」でインクルーシブな社会の実現を目的とする、新しいメソッドが必要です。先端アートデザイン分野は、自然と一体化する日本人の精神、他を慮る心を原点に、科学技術、アート、デザインを融合した「Nature-Centered」な世界を追求し、多角的でハイブリッドな解を創出します。



Nature-Centeredの追求 ～科学技術、アート、デザインの 融合世界とは？

人を中心としたHuman-Centeredな課題解決から、科学・技術(①)とアート・デザイン(②)を包摂することで、自然と共生・共存するNature-Centered(③)な課題解決へと視座を転回し、真のインクルーシブ社会の実現を目指します。

シンボルについて



古代ギリシアの著名な研究者たちが集った多種多様な知の融合を象徴する「アテナイの学堂」と、仏教の世界において大切な意味を秘めている和を示す「丸窓、円」、Nature-Centeredの「N」とInclusiveの「I」を組み合わせて、「和」をもって持続的なインクルーシブ社会を創造することを表現しました。
Design ©Shinobu Ito

第一線のアートデザイン実践者 先端アートデザインラボ教員陣

東京大学名誉教授 東大先端研前所長	Setsu & Shinobu ITO 共同代表	Setsu & Shinobu ITO 共同代表	東京フィルハーモニー交響楽団 コンサートマスター	TANGENT 創業者
神崎亮平 シニアリサーチフェロー	伊藤節 特任教授	伊藤志信 特任准教授	近藤薫 特任教授	吉本英樹 特任准教授

連携協定機関(高野山会議関係)

高野山真言宗総本山金剛峯寺
高野山大学
和歌山県・高野町・橋本市・かつらぎ町
ミラノビッコカ大学、ミラノ工科大学
東京フィルハーモニー交響楽団

パートナー企業 [社会連携研究部門]

株式会社資生堂
住友商事株式会社
ソニーグループ株式会社
日本たばこ産業株式会社
マツダ株式会社

[共同研究]

朝日インテック株式会社
TOPPAN株式会社

AADアドバイザー

新井 鷗子 (横浜みなとみらいホール館長 東京藝術大学客員教授)
Stefania Bandini (人工知能研究者 ミラノビッコカ大学教授)
Stefano Giovannoni (デザイナー Giovannoni Design 社代表)
Ashley Hall (デザイン研究者 ロイヤルカレッジオブアート教授)
原田 則彦 (カーデザイナー Zagato 社デザイン担当副社長)
石井 大輔 (ソニーグループ株式会社クリエイティブセンター長)
久石 譲 (作曲家 指揮者 ピアニスト)
Vincenzo Iavicoli (College for Creative Studies デトロイト校教授)
乾 龍仁 (学校法人高野山学園顧問)
石丸 恭一 (東京フィルハーモニー交響楽団専務理事/楽団長)
勝沼 潤 (日本電気株式会社Corporate Executive Chief Design Officer)
河口 洋一郎 (アーティスト 東京大学名誉教授)
隈 研吾 (建築家 東大特別教授・名誉教授)
Birgit Lohmann (デザイナー デザインブーム創業者)
前田 育男 (マツダ株式会社シニアフェロー)
Rossella Menegazzo (ミラノ大学文化環境学部准教授)
Jeff Mills (ミュージシャン 作曲家 DJ)

信藤 洋二 (資生堂クリエイティブ(株)シニアクリエイティブディレクター)
大野 和士 (指揮者 新国立劇場オペラ部門芸術監督)
大沼 信一 (UCL ユニバーシティカレッジロンドン教授)
大瀧 裕樹 (日本たばこ産業株式会社執行役員 D-LAB 担当)
Marc Sadler (デザイナー Sadler Associati 社代表)
佐藤 恵子 (キュレーター)
塩見 直輔 (株式会社リクルート執行役員)
添田 隆昭 (高野山大学長)
杉浦 滋彦 (美術研究家 企業経営者)
竹中英介 (住友商事株式会社執行役員 経営企画部長)
辻井 伸行 (ピアニスト 作曲家)
宇田 哲也 (富士通株式会社デザインセンター長)
Patricia Urquiola (デザイナー Patricia Urquiola社代表)
山田 和樹 (指揮者)
吉田 都 (バレリーナ 新国立劇場舞踏部門芸術監督)
Francesco Zurlo (ミラノ工科大学デザイン校副校長/教授)

(敬称略・姓のアルファベット順)